



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	初学者への臨床心理スーパーヴィジョンに関する留意点
Author(s)	渡邊, 誠
Citation	臨床心理発達相談室紀要, 2, 1-5
Issue Date	2019-03-28
DOI	https://doi.org/10.14943/RSHSK.2.1
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/74917
Type	departmental bulletin paper
File Information	01_Watanabe.pdf



初学者への臨床心理スーパーヴィジョンに関する留意点

渡邊 誠*

Some Considerations with Regard to the Supervision of Beginners.

Makoto WATANABE

要 旨

大学院修士課程在学レベルの初学者に対する臨床心理スーパーヴィジョンに関して、いくつかの留意点を指摘し考察した。スーパーヴァイザーからの助言は、その実行が現実的に難しい場合があり得る。スーパーヴァイザーがクライアントの利益のためになしうることを、現実的に検討するという姿勢が重要であり、それを可能とするスーパーヴィジョン関係が必要である。スーパーヴァイザーの自己愛の問題が、スーパーヴィジョンのマイナス面の一因たり得る。

キーワード：初学者、スーパーヴィジョン、介入方法、現実的姿勢

Key words：Beginners, Supervision, Intervention Methods, Realistic Attitude

1. はじめに

大学院における臨床心理学的支援専門家の養成課程において、初学者に対する担当事例に関する臨床スーパーヴィジョンが重要であることは、広く認められている。本邦における臨床心理士、公認心理師の大学院養成課程においては、日常的にスーパーヴィジョンが行われているであろう。初学者に対する臨床スーパーヴィジョンに関しては、一定程度の研究の蓄積があり、展望論文も著されている（篠原 2010）。また、スーパーヴァイザーを対象とする、初学者段階でのスーパーヴィジョン経験に関する実証的研究も行われている（箕浦他 2014,井出他 2015）。本稿では、それらから見出された初学者へのスーパーヴィジョンに関する知見を踏まえた上で、これまであまり述べられてこなかったと思われる幾つかの点を提示し、それらについて考察することを目的とする。

2. 先行研究にみる初学者対象スーパーヴィジョンの留意点

篠原（2010）は、本邦における初学者に対するスーパーヴィジョンに関する研究を展望し、概ね以下のような留意点を見出している。

- 1) 初学者に対するスーパーヴィジョン関係は、基本的に支持的であることが望ましい。

* 北海道大学大学院教育学研究院准教授

- 2) スーパーヴァイザー、スーパーヴァイジー双方が、率直に意見を述べ合える関係であること。
- 3) スーパーヴィジョンにおける関係と、スーパーヴァイジーとクライアントとの関係の間には、並行的な過程 **parallel process** が見られ、これは特に初学者において顕著であり得る。
- 4) スーパーヴァイザーはスーパーヴァイジーに模倣モデルを提示する。
- 5) スーパーヴァイザーは以下のような点に関して、具体的、現実的な指摘を行う。
 - a. クライアントの見立てと援助の方向性
 - b. クライアントを尊重する姿勢
 - c. クライアントとスーパーヴァイジーの保護
 - d. 面接構造の確認
 - e. 介入の方法
- 6) スーパーヴァイザーはスーパーヴァイジーの自主性を促進する。
- 7) スーパーヴァイザーは倫理的側面に対処する。

箕浦他（2014）および井出他（2015）は、大学院在学中のスーパーヴィジョン経験についてスーパーヴァイジーを対象とした実証的調査研究を行い、その結果に基づいて初学者段階におけるスーパーヴィジョンの望ましい在り方について考察している。その中には、以下のような指摘が含まれる。（便宜上、先の記述からの通し番号を付して述べる。）

- 8) スーパーヴィジョンは、スーパーヴァイザーの心理臨床家としての発達段階に応じて行われるべきである。
- 9) とともに協力し合って心理面接を成功させていこうとする作業を行うことが、スーパーヴィジョン関係の本来あるべき姿である。
- 10) スーパーヴァイザーは、自分が伝えたことがスーパーヴァイジーの腑に落ちているかを、常に見極めなくてはならない。
- 11) スーパーヴァイジーはひとりひとり異なるのであり、その個別性に応じた関わりが必要である。

これらの留意点に加えて、あるいはこれらの点の具体的内容に該当する事柄を、いくつか提示して論じたい。

3. 初学者がスーパーヴァイザーの示した介入を模倣、ないし実行しようとする際の問題点

初学者には当然ながら、心理臨床家として様々な制約がある。技量の上で、できることは限られよう。しかし、皆無であるわけではない。専門家であるかどうかにかかわらず、私たちは互いに支えあって生きているのであり、そういった体験の蓄積のなかから初学者は心理面接場面において、対人支援に役立つと思われるさまざまな方法を用いているだろう。それまでの訓練課程で学んだ知識や技法も重要である。だが、むしろ技量としては十分なものではない。

そういった事柄が背景にあるため、スーパーヴァイザーは初学者の心理面接に対して、臨床心理学的な介入法を助言することがあるだろう。その際、初学者の側が腑に落ちた理解を持つ

ことが重要であることは、既に述べられている（箕浦他 2014）。しかし、腑に落ちることと、適切に実行できることとは別と考えるのが実際的ではなかろうか。初学者にとって、上級者の示す臨床技法は、場合によってはまるで魔法のように思えるのではないか。スーパーヴァイザーは初学者にとっての模倣モデルとなるとは言え、実際に模倣するのは、かなり困難である場合があり得る。初学者が実行は難しいと感じることもあろうし、実際にやってみようとして上手くいかない、という場合もあるだろう。Yalom（1995）は、集団精神療法のスーパーヴィジョンに関して、スーパーヴァイザーの示した介入の言葉を、スーパーヴァイジーが不適切なタイミングで言ってしまう傾向があることを指摘し、この言葉を次のセッションで言うてはならない、君がなしえた応答の一つだ、と前置きをした上で述べる、と言っている。この Yalom の指摘する点以外にも、スーパーヴァイザーの示した介入の言葉をスーパーヴァイジーがそのまま言っても上手くいかない理由があるように思える。

その一つは、言葉の持つ音声的側面を初学者が適切なものにすることが難しいことであろう。集団精神療法では、上級指導者が同じセッションに参加している場合があり、その際は、介入の実際を目の当たりにし、いわば肌で知ることができる。しかし、初学者がそれを模倣して介入しようとしても、個々のクライアントもグループ全体も、異なった反応を示す場合が多いのではないか。これは私自身の経験でもある（渡辺 1990）。Sullivan（1954）の指摘する通り、心理面接（Sullivan は「精神医学的面接」と言っているが、同義と捉えて良いものと思う）はすぐれて音声的 vocal なものであろう。神田橋他（2003）も、人と話すときは自分の声と相手の声が調和するよう心掛ける、という言い方で、同様と思われることを述べている。初学者にとって、この点は難しいのではないか。そもそも、とにかく介入するのが精一杯で、その際の声の調子にまで気を配る余裕が持てない、という場合も多いように思う。

さらには、同じ言葉を発しても、性別、年齢、職務上の立場、等により、相手による受け取り方が異なるという点が挙げられる。これは指導者の介入の言葉や態度を模倣しようとした時、初学者自身にしばしば違和感のようなものとして感じられるものの一部ではないか。スーパーヴァイザーはスーパーヴァイジーに較べて、多くは年長であり、性別を異にする場合もあり、職務上指導的な地位についていることも多く、職種が異なる場合もあろう。スーパーヴァイザーが示す介入は、これらの条件に馴染む形での言葉であり、態度である場合があり、しかも、スーパーヴァイザー自身がそのことに気づいていない場合があるように思う。初学者がスーパーヴァイザーを模倣し、助言を実行しようとしたときに感じる違和感の一因であり、クライアントの側の反応が異なる理由の一つともなっているように思う。

4. 初学者がクライアントの利益のためになし得ることを、現実的に検討するという姿勢

スーパーヴァイザーの介入上の助言が、スーパーヴァイジーにとって板についた形で実行可能なものであるかを、現実的な姿勢により両者で検討することが有用であると思う。スーパーヴァイザーの助言は、技量、立場、年齢等が大きく異なるスーパーヴァイジーにとって、内容的にいかにも適切なものであろうとも、実際上は絵空事である、という場合があり得る。特に、スーパーヴィジョンにおいて両者が率直に意見を述べ合える関係でない場合は、そのことが顕在化しづらい点に留意する必要があるように思う。

私自身のスーパーヴァイジー経験で言えば、スーパーヴァイザーの助言にいささか困惑しつ

つも、それをはっきりと口にできなかった時に、「できそうな感じがしませんか？」と問われたことが、大きな助けになった。初学者の私にとって熟練者であるスーパーヴァイザーは、半ば魔法使いのような驚嘆すべき存在であり、上級者である先輩との間にも、雲泥の差があるように感じられ、仰ぎ見るような存在であった。そういった相手に対して、苦心惨憺して上手くゆかない面接の報告をして、ときに厳しい指摘を受ける（ほとんど叱責と感じられることもあった）のがスーパーヴィジョン体験の、少なくとも一部であった。顧みて実に多くを教わる経験であったスーパーヴィジョン体験にしてそうである。初学者なのだから多くの限界があるのは当たり前だとは言っても、そのことに直面させられることは辛く、もっともな助言に対して「できません」と答えることは自己価値感を下げ、辛さをさらに増長させよう。スーパーヴァイザーの支持的な姿勢と、率直に意見を言い合える関係の土壌がなければ、そういったことは口にできなくて不思議はないように思う。

スーパーヴァイザーの置かれた現実的な条件のなかで、クライアントにとっての利益が最大になるようにするには、どのようなことが可能か、という視点での検討が重要であり、有効であると思う。そしてそのためには、前提としてスーパーヴァイザーとスーパーヴァイジーとの関係が、率直であり、協働的であり、そして支持的であることが必要ではないか。

また、現状では絵空事であるという技法、介入であっても、スーパーヴァイジーが経験を積み技量を磨いてゆく過程のなかで、一つの方向性を指し示すものとしての意味がある場合があるだろう。今はできなくともかまわない、将来できるようになればよい、と言い添えて行う助言があつて良いのではないか。

5. スーパーヴァイザーの自己愛の問題

人に認められたい、肯定されたいという願望という意味での自己愛は、クライアントとの心理面接においても、多少なりとも関与していると言われる（岡野 1998）。心理面接においては、クライアント側の必要性が最優先されるべきであるという原則があるだろうが、人と人との生身のかかわりあいであるからには、心理臨床家側の自己愛が関与することは避けられず、また、自己愛は自己肯定感、自己効力感と関連していようから、皆無にするということも、おそらく現実的ではないだろう。スーパーヴィジョン関係においては、心理面接以上に、スーパーヴァイザー側の自己愛の問題が関与してきやすいのではないか。スーパーヴィジョン関係は教育を目的とするものであり、教育の場合、受け手側の利益を優先するということは、必ずしも徹底されないように思う。スーパーヴァイザーの自己愛的態度が強いと、スーパーヴァイジーの心理臨床家としての発達段階に配慮することがおろそかになる、スーパーヴァイザーなら可能であっても初学者には実行困難な介入を助言する、スーパーヴァイジーの依存的態度を助長し、結果的に自主性を抑制してしまう、といった否定的影響の一因となり得よう。心理面接同様スーパーヴィジョンにおいても、受け手側の利益を優先するという姿勢が重要であるように思う。

6. むすび

初学者に対する臨床心理スーパーヴィジョンに関して、介入法を助言する際の問題点、スーパーヴァイジーの置かれた条件のなかで、現実的になしうることを検討するという姿勢の重要

性、スーパーヴァイザーの自己愛の影響に関して、若干の考察を述べた。介入法の助言と関連して、心理面接における音声的側面のスーパーヴィジョンのなかでの扱い方に関しては、工夫および論考が必要であろう。また、スーパーヴァイザーの自己愛の問題に関しても、さらに考察することが求められよう。今後の課題としたい。

引用参考文献

- 井出尚子・田淵尚子・箕浦亜子・上村恭子・小海富美代・須佐祐子（2015）心理臨床家の専門家としての発達に関する研究（3）～大学院における心理臨床教育としてのスーパーヴィジョンに求められること：スーパーヴィジョンでのよかった体験の質的分析より～．多摩心理臨床学研究 9:1-13
- 神田橋條治・滝口俊子（2003）不確かさの中を 私の心理療法を求めて．創元社
- 箕浦亜子・田淵尚子・井出尚子・上村恭子・小海富美代・須佐祐子（2014）心理臨床家の専門家としての発達に関する研究（2）～大学院における心理臨床教育としてのスーパーヴィジョンに求められること：スーパーヴィジョンでのよくなかった体験の質的分析より～．多摩心理臨床学研究 8:13-26
- 岡野憲一郎（1998）恥と自己愛の精神分析．岩崎学術出版社
- 篠原恵美（2010）我が国における初学者へのスーパーヴィジョンについての展望．心理臨床学研究 28:3:358-367
- Sullivan, H.S. (1954) The Psychiatric Interview. W. W. Norton & Company Inc., New York
- サリヴァン H.S.中井久夫他訳（1986）精神医学的面接．みすず書房
- 渡辺誠（1990）集団精神療法治療者における自己形成の初期過程．小樽女子短期大学研究紀要 23:295-322
- Yalom, I.D. (1995) The Theory and Practice of Group Psychotherapy. 4th.ed. Basic Books inc. ヤーロム I.D.中久喜雅文他監訳（2012）グループサイコセラピー．西村書店

Abstract

On the clinical psychology supervisions for the beginners at the graduate school MS degree courses, several points to be noted were pointed out and discussed. Advice from supervisor may be realistically difficult to practice. The attitude to consider realistically what supervisee can do for the benefit of the client is important and the supervision relationship that enables it is necessary. Supervisor's narcissism can contribute to the negative side of supervision.